

# クラス担任のための Career Guidance

2015 >> VOL.27

キャリアガイダンス 特別編集



## チームワークと自立 文化祭・学園祭をキャリア教育に生かす

文化祭や学園祭も、キャリア教育の視点で見ると、さまざまな可能性にあふれています。実際に生徒の成長に生かしている先生の例をご紹介します。

### クラスの団結力が高まり 生徒が成長する絶好の機会

生徒が楽しみにする学校行事の一つが文化祭や学園祭。その準備がそろそろ始まる学校も多いことだろう。この機会を単なる「お楽しみ」に終わらせるのではなく、キャリア教育にもつなげる「体験から学ぶプロジェクト学習」という視点を持つと、さらに意義深いものにできるのではないだろうか。

生徒同士で話し合い、出し物を決め、役割分担をして、期日までに準備を進め完成させていく。当日は「お客さん」からの反応があり、自分たちの成果が見える。そして、すべての過程で、「チームになつていく」感覚を味わい、時には葛藤も経験する。そのような体験を通じて、クラスの団結力が高まり、生徒の成長を実感される先生も少なくないはず。キャリア教育に力を入れる大阪府・常翔学園中学校・高等学校の倉田真先生も、そんな生徒の成長

を、文化祭で実感するという。「昨年担当した高校1年生のクラスは、最初はとても受け身な生徒が多かったのですが、文化祭の準備を通じて個性が出始め、徐々にまとまっていきました。当校では毎年、文化祭後に総合的な学習の時間で取り組むキャリア教育プログラムの発表会があるのですが、その活動にも確実につながりました。しかも3学期は、自分たちでどのようなクラスにしていきたいかを話し合い、2カ月間、生徒主体でクラス運営を行ったのですが、提出物などこちらが催促しなくても、ほぼ100%が提出するようになったクラスに変貌しました。その成長は目を見張るばかりです」

文化祭をそのような成長の機会にしていくには、教師がどのように関わっていくべきなのか。倉田先生の取り組みを聞いてみた。

### 生徒の可能性や力を 信じて「待つ」

「基本的には、すべてを生徒に任せ、「待つ」ことを徹底します」と、倉田先生。学年の最初のLHRで学級委員を決定した際、「これからは、君たちにLHRをすべて任せると伝えるのだとか。倉田先生は、学級委員に、年間、この時期にはこんなことを決める必要があるということをは伝えるが、実際のLHRには介入しない。事後に、こんなことを決定した、こういう議論をしたという報告を学級委員から受けて、必要に応じてアドバイスをする程度。」

「昨年の場合では、6月にそろそろ文化祭の準備をという話は学級委員にしました。その際、私からの要望は、みんなで楽しめるもの。一人でも否定する人がいたら、その人も楽しめるようなものを考えてください」とだけ伝えました。

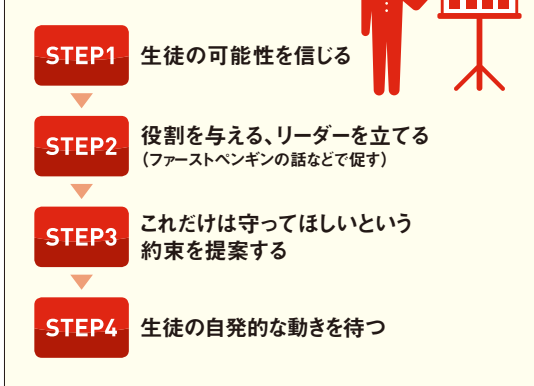
そこから、学級委員と文化厚生委員が中心となって、出し物決めがスタート。クラスのほぼ全員が「輪投げやもぐらたたきなどのアミューズメントパーク」で合意したものの、一人だけどうしても「当日、みんなで何かをした」と反対する生徒がいたという。「しゅちゅう、文化厚生委員が相談に来ていました。なかなか決まらないことやうまく話し合いを進められないという話も。でも、私がじゃあ、辞めたらいいよ、という、それは嫌だ」と笑。結局、私に背中を押してもらいたがっていったんです」

「そんなことを決めてもいいが、それをやって1週間後、クラスがどうなっているかを考えて、というお願いはしました。また、やってこない人がいたとしても、責めるのではなく、どうしたらできるようにするか一緒に考えてと伝えていました」

### 倉田先生のクラス運営の流れ

- 4月** **学級代表と副代表を決定**  
今後のLHRをすべて任せると伝える「ファーストベンギンの話をしたあとに『やる人』と聞くと、即座に手が挙がります」
- 6月** **文化祭の準備をそろそろ始めるように確認する**  
「『出し物は、みんなが楽しめるもの、一人でも否定する人がいたら、その人も楽しめるように工夫してあげてください』とだけ、伝えておきました」  
※文化祭当日までは、基本的に生徒からの質問や相談に対応
- 9月** **文化祭**  
「昨年は、輪投げやもぐらたたきなどのアミューズメントパークを行いました。一人だけ『当日、みんなで何かをしたい』という生徒がいて、宣伝を兼ね、校庭で全員でダンスを踊りました。もちろん、私も参加させられました(笑)」
- 1月** **キャリア教育の一環で、企業探究の校内発表会**  
「文化祭でチームがまとまり始め、役割もできて、自分たちで準備を進めるキャリア教育の校内発表会につながっていききました」
- 2月** **朝礼・終礼を含め、すべてのクラス運営を生徒に任せる**  
「残り2カ月を、どんなクラスにしていきたいか生徒同士で話し合い、小テストで勉強に力を注ぐことや提出物をしっかり出すことなど、自分たちで目標を設定。目標設定する際は、『それをやって、1週間後にどういうクラスになっているかを想像してみてください』というお願いだけをしていました」

### 倉田先生が実行した教師の役割



常翔学園中学校・高等学校 技術・家庭科・情報科 倉田真先生

大阪工業大学情報科学部を卒業し、教員に。府立高校(非常勤)を経て、現校へ。常勤2年目で最初のクラスを担当。途中、入試部の配属となり、クラス担任から離れたが、昨年、高校1年生のクラス担任に。自主性を大切にするクラスづくりを目指す。

「なかなかうまくいかないと思うときに、『待つ』のは実はすごくつらいんです。でも、そこをどれだけ我慢できるかが大事だと思うんです」

「文化祭を乗り越えた自信が次への意欲につながる」  
そもそも、学級委員になった生徒たちも、最初から自分たちだけでLHRを運営するとは思っていません。そこでの戸惑いは、少なからずあったことだろう。

リウナビ進学 高校生の主体的な進路選択を応援する先生のための Career Guidance キャリアガイダンス 進路指導・キャリア教育の専門誌

【最新号】Vol.407号 2015年5月発行

■特集 2035年 社会・働き方は変わっていく。「未来社会」にどう向き合うか？

SpecialContribution 「若者たちに必要な力とは」 Andreas Schleicher (OECD教育局長)

■展望編  
① 未来社会をどう描く？ 企業の戦略に学ぶ  
② データから分析する 未来の働き方  
③ 未来を創造する力「を」どう育むか？

■未来を創る学校編  
未来を描く授業とワークショップ

【新連載3本スタート！】  
アクティブラーニング型授業への挑戦 小杉高校(富山・県立)  
地域課題解決型キャリア教育 伊丹高校(兵庫・伊丹市立)  
これからの推薦・AO入試指導

「キャリアガイダンス」誌は全国の高校に贈呈しています(校長、教頭、副校長、進路指導主事先生宛に郵送) バックナンバーの記事はすべてWEBサイトで閲覧いただけます

http://souken.shingakunet.com/career\_g/